

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮崎県綾町立綾小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒880-1303

宮崎県東諸県郡綾町南俣2811

E-mail 1170ea@miyazaki-c.ed.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 217名 女子 234名 合計 451名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「ふるさとを愛し 進んで考え 笑顔のある たくましい子どもの育成」を学校の教育目標とし、その具体的な取組の一つとして、ESD を設定している。特に、生活科・総合的な学習の時間において、「地域や町の人々」をテーマとして地域での豊かな体験活動、調査活動等、地域の素材を生かした学習を展開し、他人との関係性、社会との関係性、環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる個人を育むことを重視してきた。

具体的には、①綾の自然・産物を知る学習、②綾の自然を追究する学習、③綾の産物を生産する学習、④綾のよさを伝える学習を行った。

① 綾の自然・産物を知る学習

綾町を紹介するという目的をもって活動を行った。社会科の学習と関連させ、分かったことや気づいたことを整理し、地域の特色を知る中で、町内には、いろいろな施設や観光名所、豊かな農作物があることから、一人一人が課題を設定し、調査していった。地域の人にインタビューをしたり、施設に訪問したりして、地域の人々の生き方に触れる機会を通じて、自分自身と社会とのかかわりについて関心を高めた。調べたことは、パンフレットや新聞、学習発表会で報告を行った。

② 綾の自然を追究する学習

身近な自然の中での様々な体験を通して、綾の豊かな自然への理解を深めていった。森の探検では、改めて自然の豊かさを体感し、特に、森と水との関わりに関心を高めた。生物と水、人と水との関わり等から、課題を設定し、調査活動を行った。児童が進んで調査活動を行えるよう、ユネスコエコパーク推進室とも連携していった。後半は、地域の人々と協力し、自然を守っていききたいとゴミ拾いや、ポスターを製作するなど地域の自然を守るための活動へと広がった。

③ 綾の産物を生産する学習

ふるさと綾の農業の特色について理解し、農業に携わる人々の工夫や努力、願いについて考える活動を行った。綾町は有機農業の町としても有名である。そこで、農家の方々の話を聞くことを通して、綾の農業について興味を持ったことから自分なりの学習課題を見つけ、追究していった。また、米作りにも取り組み、肥料まきや田植え、稲刈り等を通して、自分と地域の農業を支える人たちとの関わりを考えながら、体験活動を行った。

④ 綾のよさを伝え合う学習

綾町で働く人から、働く意義や生き方を学び、未来の担い手として、自分たちにできることや町で取り組んでほしいことについて提案を行った。綾町は、移住者も多い町である。そこで、身近な人で、貢献している人について話し合った後、ゲストから、綾で働くきっかけ・働く意義について話を聞き、その後、学習を振り返り、これから自分は「どう生きたいのか」という課題について向き合いながら、これからの自分の生き方について考えた。



① の写真（町探検）



② の写真（森の探検）



③ の写真（米作り体験）



④ の写真（ゲスト講話）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本年度は、教育目標の具現化を図るため、地域に根ざしたユネスコ・スクールの実現を重点指導事項の一つとして位置づけた。そこで、教科で学んだ知識や技能、思考力が生活科・総合的な学習の時間に活用できるという「教科横断的な指導」の1年間の流れを「見える化」するため作成した、ESD カレンダーの活用を図り、地域の素材を積極的に取り入れた効果的な教育活動を推進してきた。また、地域の素材を生かした体験活動を基に、探究的な学習の流れを計画的に行った。児童が単元を通して課題を追究していける単元計画の工夫や、じっくり考え思考を深めるための指導を工夫してきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ① 学校組織における ESD 担当者の配置
- ② 地域人材活用に向け、町教育委員会等との連携
- ③ 資料の蓄積及び引き継ぎ資料の作成

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校の自己評価の活用、さらに大学関係者が参加し、学校・地域・家庭が教育活動の推進を行っているか評価している。児童の変容としては、課題を追究する姿が見られるようになったことが挙げられた。また、気付いたことを伝え合う中で、友達のよさに気付く他者理解にもつながっていることも成果として挙げた。課題としては、体験活動の目的を意識しながら、精選と計画を行っていく必要性がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

学校のホームページに、それぞれの学年の活動の様子を載せ、発信している。また、学習発表会や町主催の子ども議会においても、学習してきて得られたことをもとに、発表する機会を設けている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

町教育委員会や図書館、役場の関連機関、町のユネスコエコパーク推進室等との連携をしている。また、地域の方に講師として来校してもらったり、体験活動にも参加してもらったりしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域に根ざした学びであることから、児童が、これまで以上に、地域について考えて、自分たちにできることはないかと自主的に考えるようになった。自分たちの地域に誇りをもつ児童が増えている。

（３）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ① ESD カレンダーの見直しとその活用
教科横断的な学習の年間構想図を活用するとともに、教科における指導内容や活動等を精選しながら、より効果的な教育活動を推進する。
- ② 問題解決的な学習の積極的な展開
問題解決的な学習を積極的に展開した教育活動を推進する。
ア 生活科・総合的な学習の時間の学習モデルの活用
（ア）地域の人とのかかわり、自然とのふれあいを重視した体験活動の充実
イ 探究意欲が継続する単元開発の工夫
（ア）効果的な出会いの場となる体験活動の充実
（イ）体験活動と課題設定のつながりを重視した指導方法の追究
- ③ 成果の発信
実践の成果を学校内外に発信する。
ア 他学年への発表
イ 参観日等で取組の紹介